

作成例

推薦調書

大 学 名	小樽商科大学	大学番号	101001	
推 薦 順 位	第 3 位 / 5 人中	※の箇所は文部科学省にて入力する		
氏 名	MONBUKAGAKU, TARO		個人番号※	
生 年 月 日	19 80 年 1 月 1 日 (33 才)	性別	男	
国 籍	アメリカ合衆国	国籍コード	502	
現 住 所	東京都千代田区霞が関00-00			
電 話 番 号	03-0000-0000	E-mail	monka@pc.ac.jp	
学 位 論 文 題 目	学位の別	○○○○に関する考察		
	修士	論文 題目		
希望奨学金支給期間	2013 4 月から 2016 年 3 月まで 36 ヶ月間 (2013年4月からの在籍先課程修了の月を入力し、延長を予定する期間は含めないこと)			
2013年4月現在の 在籍先 (日本語で記入)	大 学 名	○○大学	研究科名	○○研究科
	専 攻 名	○○○	在 籍 年 次	博士 (博士後期) 1年
(2013 年 4 月 に ⇒ 入学見込) ←入学・入学見込の該当するものを選択すること				
最終学歴	大学名 ○○大学			
2013年3月修了 見込みを含む	学部・研究科名	○○研究科	課程 (修士)	
学業成績係数	2013 年 3 月 (修了見込) 修学年数合計 20 年			
語学能力	日本語(優) 英語(優) その他[ドイツ語] (良)			
面接結果	優			
総合評価	優			
研究分野・専攻分野 (日本語で記入)	研究分野 (社会科学)	専攻分野 (国際経済学)		
	○○と○○における○○ 特に に関する研究			
寸 評	○○○○・・・			
最新職歴 (所属・役職名等)	勤務先及び勤務国	○○○○ (アメリカ合衆国)		
	役職名	Assistant Director		
	勤務期間	2001 年 4 月 ~ 2003 年 3 月		
国費留学の経験	(無) (有の場合は、その期間、在籍大学(学校)名及び留学生の区分を記入)			
	年 月	年 月	区分	

＜推薦調書作成要領＞

- 1 使用できる文字は、数字は半角、英字は半角英大文字、カタカナは全角文字とする。
- 2 「大学番号」欄は別添の大学番号一覧に基づき入力すること。「大学名」は「大学番号」を入力すると自動的に表示される。
- 3 「個人番号」欄は文部科学省にて記入するため、記入しないこと。
- 4 「推薦順位」欄は、推薦者が2名以上いる場合は必ず順位を付すこと。
- 5 「氏名」、「生年月日」、「性別」、「現住所」、「電話番号」、「E-mail」欄は申請書シートに入力すると自動的に反映される。なお、氏名の綴りはパスポートと同一となっていること。
- 6 「年齢」欄は「生年月日」から2013年4月1日現在の年齢が自動計算される。
- 7 「国籍コード」欄は別添の国籍コード一覧の番号を入力すること。「国籍」欄は「国籍コード」を入力すると自動的に表示される。
- 8 「学位論文題目」欄は、申請書シートに入力したものが自動的に反映される。記入する学位論文は、修士進学予定の学部4年の者は学士論文、修士課程在学中で修士論文の題名が決まっていれば修士論文、未決定ならば学士論文というように、最新のもが入力されていること。なお、過去に一度も論文を書いていない場合には、「学位論文題目」欄に「なし」と記入すること。
- 9 「希望奨学金支給期間」欄は、2013年4月から在籍予定課程の標準修業年限終了までの期間を入力すること。「奨学金支給月数」は年月を入力すると自動計算される。
- 10 「2013年4月現在の在籍先」の「在籍年次」欄は該当する在籍年次を選択すること。
- 11 「最終学歴」の「課程」欄は該当する課程を選択すること。
- 12 「学業成績係数」欄は、別添4「学業成績係数の算出方法」により算出した係数（小数点以下第3位切り捨て）を入力すること。

なお、学業成績係数が算出出来ない場合は、算出出来ない理由及び学業成績係数が2.50以上に相当すると判断した具体的かつ客観的な根拠を「学業成績係数が算出出来ない理由」シートに記載すること。
- 13 「語学能力」及び「面接評価」欄は、優・良・可・不可から該当する評価を選択すること。評価にあたっては100点満点に換算し、総合評価が80点以上を「優」、79～70点を「良」、69～60点を「可」、59点以下を「不可」を目安とされたい。
- 14 「総合評価」欄は、優・良・可・不可から該当する評価を選択すること。評価は「学業成績」、「語学能力」及び「面接結果」を踏まえ、総合的に評価した結果とすること。なお、評価にあたっては100点満点に換算し、総合評価が80点以上を「優」、79～70点を「良」、69～60点を「可」、59点以下を「不可」を目安とされたい。
- 15 「研究分野」欄は、総合領域、複合新領域、人文学、社会科学、数物系科学、化学、工学、生物学、農学、医歯薬学から選択すること。
- 16 「寸評」欄は、今回推薦に至った理由を、簡潔にまとめて欄におさまるよう入力すること。（別添・別紙は添付しないこと。）
- 17 「国費留学の経験」欄は、過去に国費留学生（日韓共同理工系学部留学生含む。）であった場合は、その期間、在学大学名を記入し、国費留学生の区分を選択すること。